

杉孫七郎

すげのまご

善哉藩士、

漢詩人。

天保六年一月十六日周防團吉

敷郡御堀村生れ、大正九年五月二日歿（八三—一九〇）。善姓植木、講

重華、字子華、幼名忠三郎、忠次郎、小幡九郎、通稱植木徳輔（祐）、

杉山七郎、杉新介、號二泉生、二影、五樂道人、今業平、今蜀人、八

研堂、古研樓、古硯山堂、古竹堂、古鐘庵、古隈山人、香鶴、平前庄

孫七郎、松城、松華、松重華、無海堂主人、猴林、玉蘭堂、古城、聽

雨、聽雨堂、聽雨居士、斬弁、鯨肝、鴻東等。慶應二年の幕長戦に參

謀として出陣、戦功を擧げた。維新後山口藩權大參事、秋田縣令、宮

内大輔、室太后宮大夫、樞密出願問官兼議定官等歴任。巖谷一六、廿下

部鳴鶴等との親交、海濱諸藩の好女、粹人として聞えたる。

著書に、『環海詩話』（明治二十七年八月跋、無刊記）、『鴻爪雜記』

（大正六年一月）二十五日喜多貞吉刊）等。